（まちづくり団体）表参道発展会

場所：商店 商店街
種別：New 新規取組み
景観：賑 賑わい創出

構成人数：33名（H26年11月時点）
平均年齢：40代（H26年11月時点）
活動費用：月会費2,000円（助成金等をもらうと継続が困難になるためもらっていない）

【まちづくり団体について】

１．きっかけを作った人物

表参道の若手商店主

徐々に衰退していく商店街の現状を見た表参道の若手商店主３名（同級生）がこのままではいけないという想いから活動を始めた。

２．活動の目的

まちの魅力向上

豊川稲荷の存在により，正月期（１月～２月）に集中する観光客を他の時期にも呼び込むため，まちの魅力を向上させ，かつてのまちの賑わいを１年を通じて創出できるように活動している。

３．他団体との連携方法

重複会員による協力

地区内には４つの商店街があり，それぞれに法人格を持った振興組合が存在している。
振興組合と表参道発展会との重複会員もおり，協力して活動を行っている。

４．行政との連携方法

会合やイベントへの参加依頼

週１回の会合やイベントに参加してもらい，助言・支援をしてもらっている。
行政からの支援は金銭的なものでなく，道路の交通規制や市営駐車場の無料開放など，行政にしかできないことをまちづくりが円滑に進むようにやってもらっている。

まちづくりについて

１．まちづくりのきっかけ

・商店街の衰退
・ハード先行のまちづくりへの疑問

観光客の減少による商店街の衰退と行政のハード先行のまちづくりに疑問を持ち，まずは商業意欲の醸成が大事ではないかと考え，「できることから始めるまちづくり」を合言葉に自分たちでまちづくりを始めた。

２．まず始めたこと

いなり楽市の実施

最初は３人で飲みながら話し合いをするという感じだったが，たまたま昔の賑わっている写真を見た時にちんどん屋をやっているものがあり，これならできるんじゃないかということで「いなり楽市」を始めた。

※いなり楽市
正月期以外の月にも来訪者を集めようと３月から11月の間に毎月１回開催されている。
まちに来ていただいて商店街に様々な店があることを知っていただき，少しずつ来訪者を増やしていった。

３．参考にしたまち

豊後高田

レトロなまちなみで成功している大分県にある豊後高田のまちづくりを参考にした。

４．反対者の有無

なし

反対者はいないが，熱心にやってもらえない人は存在する。
そういった人たちに参加してもらえるようにどうしていくかが今後の課題である。

５．まちづくりを行う上での肝

・できることから
・継続

できることからやっていくことを大切にし，各家に眠っている古いおもちゃ等を家の前に展示してもらったり，商店主が広告塔となるちんどん屋を行うなどした。
最初はほとんど人が集まらないようなイベントであったが，継続して行うことによって，毎月１万～２万人の人が訪れるようになった。

６．結果を出すために実施したこと

道路の活用

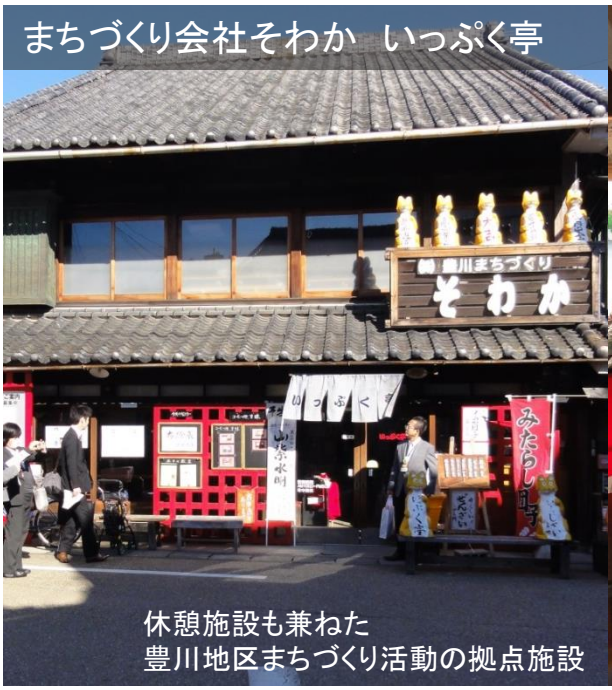
商店街の店の前の道路に戸板を置いてそこで物品を販売する「元気軒下戸板市」を実施した。
この効果としては，対面販売ができること，道路幅が狭くなり，同じ人数でも賑わっているように見えること，前に進みづらいので滞留効果が生まれることがある。
また，道路の通行止めなど道路使用について行政に協力していただいている。

駐車場の活用

閑散期にはあまり利用されていない市営駐車場を活用して，フリーマーケットを行った。
フリーマーケット協会の協力のもと，４０～５０の出店があり，駐車場の使用についても目的外使用について行政に協力していただいた。

地域住民を巻き込む

空き店舗の前に地元保育園等のぬりえを展示したり，中学生のブラスバンド，高校生のダンス等地域住民にも参加してもらい，イベントを盛り上げている。
また，子供が参加することによって親も来てくれるようになり，新たに人を集める効果もある。



ワークショップについて

１．開催について

基本的には座談会のような話し合いで，週１回の会合を１０年以上継続して行っている。

２．開催案内方法

自由参加

毎週木曜日に会合が行われていることは，地域住民には周知の事実であり，開催案内は行っていない。
会合へは自由に出入り可能で，誰でも参加可能である。
開催されない場合のみ会員に案内を出している。

３．内容について

行政がオブザーバーのような形で会議に入っていただき，直接的な意見等ではなく，効率よく会議を進める方法や行政でできることの助言をいただいている。
基本的には自分たちでまちづくりを進めているが，大きな事業を行う時は大学教授にアドバイザーを依頼している。

まちなみについて

１．状況・規模

平成１８年度から店舗のファサード整備が行われ始め，平成２５年度末時点で豊川稲荷表参道において１３軒が整備されており，徐々に昔ながらのまちなみが広がっている。

２．来訪者

イベント開催時のみならず，ファサード整備や豊川名物いなりずしの食べ歩きの仕掛け等により，豊川稲荷だけ訪れていた観光客が表参道にも立ち寄ってもらえるようになり，徐々に商店街の来訪者も増加している。
また，インターチェンジが近いことから，車での来訪者が多い。

３．滞在時間

かつては団体客を受け入れられるレストランが２店あったが，どちらもなくなったことにより昼食を挟む観光が減少し，滞在時間は短くなっている。
他の観光地の観光後，夕方に１時間程度豊川を訪れるという人が多い。

その後の活動

１．継続活動

・週1回の会合
・いなり楽市

　１０年以上も週１回の会合と３月から11月の間の毎月の「いなり楽市」を継続して実施しており，工夫を加えながら継続していくことで，徐々に発展している。

その他

１．まちづくりを行って変化した点

・地域の交流
・団結力

　イベント等で一緒に準備や片づけを行うことで，普段あまり会話のなかった地域の人達との交流が増え，親しくなった。
　また，まちづくりがどんどん盛り上がっていくにつれ，地域の人達の団結力が強くなり，協力を得やすくなっている。

２．今後の課題と展望

・新たな仕掛け
・回遊性の向上

　いなり楽市を継続して行っていき，月によって売り上げが異なるので，少ない月をどうするかあらたな仕掛けが必要と考えている。
　また，表参道以外にも特色のある商店街が周辺に存在しており，それらを含めて地区の回遊性を向上していきたい。

３．活動地域のＰＲポイント

様々なものがあり，
変化を感じられる

　豊川稲荷を軸にした門前通りといった古い歴史の中で始まってきているので，いろいろな業種，いろいろな様式の建物が存在しており，それらを見るだけでも面白いまちである。
　正月は原宿のように人が集まり，場所，季節によって多くの変化が感じられる。

（行政）豊川市　都市計画課

モータリゼーションの変化で昭和から平成にかけて観光客が減少していく中，道路計画や再開発計画など様々な計画を作成したが，行政主導であったため地域住民に受け入れられず，どれも実施されないままであった。
そんな中，若手商店主が行政任せにせず，自分たちで何かできないかという機運が高まり，地域住民によるまちづくりが進められていき，行政は都市計画道路の見直しやまちづくりのためのハード整備等，行政にしかできない部分で支援を行っている。

【行政について】

１．まちづくり団体との関わり

・会議への参加
・イベントへの参加

当初，地域住民主体でまちづくりを行っていく際の数名の中に市職員がいたこともあり，現在もオブザーバーのような形で会議へ参加している。
また，３月から11月の毎月行われる「いなり楽市」に参加し，一緒に盛り上げている。

定期的に「いなり楽市」が開催される

２．地域住民との合意形成を図る際の進め方

話し合いを重ねる

都市計画道路の見直しの検討の際には，地域の人々の中に入り，何度も何度も話し合いを行い，最終的にはまちの総意で都市計画道路の計画は廃止となった。
その後のまちづくりに関する事業等は地域住民発意のため，合意形成がスムーズに図られた。

１．取り組み前の課題

・商店街の衰退
・行政主導の計画

観光客減少による商店街の衰退と正月期への観光客の集中でそれ以外の時期の商店街は閑散としていた。
また，行政主導の計画でまちの人々は受け入れず，全ての計画が進まない状況であった。
そんな中，地域住民から自分たちでなんとかしようとまちづくりを始めたことを契機に地域住民主導で進められ，商店街が徐々に活性化していった。

２．行政の役割

行政にしか
できない支援

地域住民が考えた計画を行えるよう，道路使用や駐車場の目的外使用等，行政にしかできないところでの支援をしている。
また，建物の修景への補助金制度など，和風のまちなみを形成するというまちの目標への支援を行っている。

３．まちの整備

・道路舗装整備
・ファサード整備

和風のまちなみを形成するという地区の目標のもと，道路のカラー舗装整備や市で補助金を交付し，建物のファサード整備を行った。
商店街の景観整備は，大学教授に依頼し，建築を専攻している学生にデザイン設計をしてもらって店舗のファサード整備を行った。

４．その他

まちづくりは楽しく

楽しく行わなければ継続しないし，人も集まらない。
多種多様な人が集まり，それぞれに得意不得意があるので，人が多いほどおもしろいまちづくりができる。
行政と商店主の垣根を越えて，協力しながらまちづくりを行っていくことが目標である。

ワークショップについて

１．行政の役割

オブザーバー

会議の内容に対して意見することはないが，まちの動きを把握するとともに，行政としてできることの助言を行っている。
また，会議が効率よくかつ円滑に進められるように，わかる範囲で会議の手法や進め方を提案しており，ゆくゆくは更に活発で効率的に楽しく会議を行ってもらいたいと考えている。

まちなみについて

１．整備後のＰＲ方法

観光地としてのＰＲは商工観光課が行っているが，「いなり楽市」のイベントの紹介等には行政は介入せず，全てまちづくり団体で行っている。

２．地域住民からの苦情

なし

現在のまちづくりは地域住民主体で進められており，行政はあくまで支援という立場のため，苦情は寄せられていない。

その後の活動

１．フォローアップ内容

修景補助制度

平成２０年から景観整備基準に基づいて店舗のファサード整備に係る補助金を交付している。
平成２５年からは更なる事業促進のため，簡易改修の場合でも補助する制度を制定し，気軽に活用してもらえるようにした。

１．活動地域のＰＲポイント

継続性

いなり楽市が毎月，１２年間も開催されており，継続性が非常にある。
継続というものは能力の一つであり，まちづくりを続けていける秘訣でもある。

個性

まちには雑多なものがあり，いろいろな想いを持っている方がいる。
それぞれが一つに合わせるのではなく，違いがあるからこそ新たな次のものが生まれると感じており，全てが一緒でないところに可能性があっておもしろい。

豊川稲荷